

NAGOYA NOH THEATER
DECEMBER 2015

平成27年

12月6日(日)

12:30開演 (12:00開場)

前売券発売10月6日(火)



新作顔面を披露します
福井県津田町の「第1」回全国新作顔面公募展
において、審査員特別賞 観世シテ方久田國晴演
の能楽「家康」(作者:井上素久、東京劇)を
本公演の能弁舞の能シテで使用します。



撮影: 瀬野毅樹

名古屋能楽堂 十二月特別公演

— 徳川家康公没後四百年記念「家康ゆかりの能」 —

- 能 「玉葛」(宝生流)
シテ 玉井博祐
- 狂言 「髭櫓」(和泉流)
シテ 野村又三郎
- 舞囃子 「安宅」(金剛流)
シテ 熊谷真知子
- 能 「船弁慶」(観世流)
シテ 瀬戸洋子



撮影: 杉浦賢次

ご来場の方に抽選で
素敵なプレゼント!
本公演にご来場の方の中から
抽選で各10名様にご豪華グッズを
プレゼントします。
※ご来場の際にお受けするパンフ
レットに応募券に必要の情報は
印刷済みですので必ず
のてご確認ください。

関ヶ原の合戦の翌年、慶長六年〔1601〕三月十一日、大坂城にて、家康は豊臣秀頼を能七番狂言五番の上演で慶応した。翌日には、その返礼として秀頼が家康をもてなし、能九番狂言二番が上演された。〈船弁慶〉は十一日に〈玉葛〉は翌十二日に上演された演目である。慶長四年には大坂城西の丸に入り、秀吉死後の政権の中心となっていた家康であるが、関ヶ原の合戦が収束を迎えた慶長五年九月二十七日、ふたたび西の丸へと入った。その翌年、家康は豊臣家に対してどのような思惑を抱きながら、秀頼らと共に能や狂言を観たのであろうか。